

激動の昭和を生きる

高見順

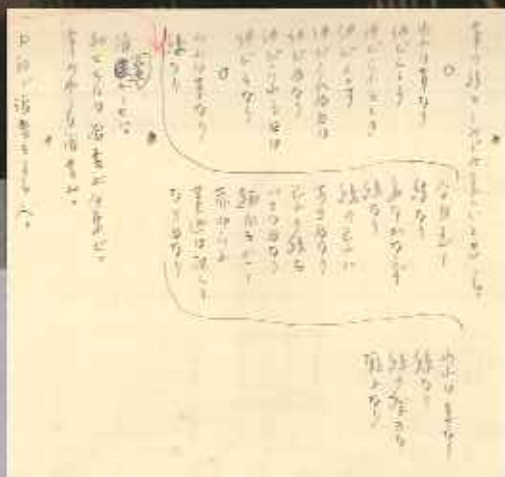
という時代

— 没後五〇年 —

同時開催

川端康成と高見順

主催 公益財団法人 日本近代文学館
協賛 公益財団法人 高見順文学振興会
編集委員 荒川洋治・安藤宏・池内輝雄・宮内淳子・武藤康史



左：昭和20年の日記より「われは単なり」
右：スケッチ「素直な主人苦悶図」

写真・日本近代文学館創立記念文芸講演会の時(昭和48年4月)

開館時間 ◎ 9:30～16:30 (入館は16:00まで)
休館日 ◎ 日曜日、月曜日、第4木曜日
会場 ◎ 日本近代文学館 展示室
観覧料 ◎ 200円 (20名以上の団体は1人100円)
アクセス ◎ 京王井の頭線「駒場東大前」駅
西口改札より徒歩7分 駒場公園内
お問合せ ◎ 03-3468-4181

2015

9/26 土

- 11/28 土



公益財団法人
日本近代文学館

〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-55

激動の昭和を生きる

かつて高見順という時代があった。という中島健蔵の名言の通り、彼は激動の昭和を常に文壇の中心選手として疾走し続けた巨匠である。

昭和の初頭、大学在学中に左翼活動を始めるが検挙されて転向。その後、時代の苦悩を饒舌体で綴った「故旧忘れ得べき」が第一回芥川賞候補となり、文壇にデビューした。浅草に生きる人々を共感をもって描いた「如何なる星の下に」に代表されるように、転向後の彼は、陋巷の庶民の姿を独自の散文精神で綴っていくことになる。戦時下に陸軍報道班員としてビルマに派遣されるが、一方で彼は「文学非力説」を主張して全体主義の悪風に立ち向かった。しかし敗戦後は、時代に翻弄された自身の生き方を悔恨と共に振り返り、苦渋の道をたどることになる。自身の生きた時代とは何であったのか、を執拗に問い続ける中で、長編「いやな感じ」や評論「昭和文学盛衰史」を著し、自ら「高見順という時代」を総括していくのである。すでに病魔に冒されていた彼は、詩集「死の淵より」を残し、読者に深い感銘を与えてこの世に別れを告げたのだった。

今回の高見順展は、没後50年を機に、あらためて彼が昭和という時代をいかに生き、自らそれをどのように総括しようとしたのかを見つめ直すことにねらいがある。そしてそれは同時に、彼が晩年、その設立に心血を注いだ日本近代文学館の成り立ちを問い返すことでもある。高見順自身が収集に努め、館に寄贈された数多くの貴重な資料を通し、あらためてその文学精神をたどってみたい。

(編集委員・安藤宏)

同時開催



川端康成と高見順

作家は常に出発が到達であり、一つの到達が一つの出発であらねばならぬが、高見が死を前にした、終りの到達ほど、新たな出発を孕んだ到達は、稀であった。

川端康成「高見順展のこと」より

明治32(1899)年生まれの高見順と、明治40(1907)年生まれの高見順。

二人の昭和を代表する文学者は、ともに鎌倉に居を構えて以降、親しく行き来し、戦中・戦後は鎌倉文庫の運営に心血を注ぎ、ペンクラブの活動や日本近代文学館の設立に尽力するなど、多く行動を共にしています。

本展では、当時の書簡、原稿、雑誌などからその交流や、高見順の見た「川端文学」・川端康成の見た「高見文学」を、そして鎌倉文庫の活動の記録から、激動の時代を生きた二人の文学者の姿を紹介します。

写真：長谷の川端邸にて高見順と(昭和30年4月)

併設の川端康成記念室にて開催
企画展の入場料で同時にご観覧いただけます

展示内容紹介

第1部門 生い立ち

原稿「わが胸の底のここには」、学生時代の日記

第2部門 描写のうしろに寝てられない 文壇デビュー

原稿「故旧忘れ得べき」、同人雑誌「運転時代」

第3部門 浅草との出会い

「如何なる星の下に」挿絵原画、浅草時代の創作ノート

第4部門 文学非力説と職介

原稿「文学非力説」、従軍日記、家族宛書簡

第5部門 「昭和」という時代

原稿「昭和文学盛衰史」「いやな感じ」

第6部門 詩作と高見順

詩集「われは草なり」「死の淵より」

第7部門 日本近代文学館設立へ

晩年の日記、高見順宛書簡

その他多数出品

記念講演会

主催：公益財団法人 高見順文学振興会

協力：公益財団法人 日本近代文学館

会場：日本近代文学館 講堂

定員：80名

受講料：1000円(展示観覧料を含む)

■ 高見順の蹉跎

講師：池内紀(ドイツ文学者・ユツセイスト)

日時：9月26日(土) 14:00~16:00

■ 高見順と現代

講師：荒川洋治(現代詩作家)

日時：11月3日(火・祝) 14:00~16:00

お問合せ Ⅱ：03-3468-4181(日本近代文学館)

講談社文芸文庫

「わが胸の底のここには」

高見順 解説—荒川洋治

高見順の自伝的長篇小説

没後50年に初の文庫化。

定価：1900円(税別)

2015年
9月10日
刊行予定

交通のご案内

京王井の頭線「駒場東大前」下車

西口改札から徒歩7分 駒場公園内

※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。



公益財団法人
日本近代文学館
〒153-0011 東京都目黒区駒場1-3-55
TEL 03-3468-4181 <http://www.hungakokan.or.jp/>